

「日本でいちばん大切にしたい会社」から学ぶ コピー機に列ができて1台しか置かない理由

業績好調かつ社員を大切にしている会社の事例を集めている書籍『日本でいちばん大切にしたい会社』『日本でいちばん大切にしたい会社2』（坂本光司著、あさ出版）が話題になっています。そのなかで取り上げられている未来工業株式会社（岐阜県）は、年間休日数140日前後と「日本一休みの多い会社」として有名です。同社にはさまざまなエピソードがありますが、そのひとつに「社員数780人のオフィスでコピー機が1台しかない」という驚くべき特徴があります。

コピー機の列=コミュニケーションの場

社員数40人程度の事業所でも、コピー機に何人かの列ができる場合があります。780人規模のオフィスでコピー機が1台しかなく列をなしている光景というのは、想像を絶することでしょう。

「列に並んで順番を待つのは非効率。コピー機を増やせばいいのに」
多くの方がこう考えるのではないかと思います。

しかし、未来工業ではコピー機を増やすことを考えていません。なぜだと思いませんか？
それは、コピー機に並ぶ列を「社員間のコミュニケーションの場」と、とらえているからです。

コピー機の列には、普段話すことがない他部署の社員がいます。順番を待っている間に世間話や仕事の話をすることで、コミュニケーションの活性化につながります。すると社内の風通しがよくなり、生産性が向上します。コピー機増設による効率化よりも、コミュニケーション活性化による生産性向上のほうが、大きな効果をもたらすと同社では考えているのです。

どんな会社でも多かれ少なかれ部署間の壁が存在します。コピー機に限らず、部署や世代の壁を越えたコミュニケーションが取れる「場」を提供することを、経営者の方はいま一度検討してみてくださいはいかがでしょう。